

市営となる。市営当初は延長 16.3km であったが、その後逐次市内に路線を延長するとともに、昭和 25 年から複線化に着手して同 29 年末には桑園線を除き全線複線となり現在に至っている。

2 軌道線 (前頁表参照) 3 運輸概況 (前頁) (石川 貢)
ざつむしゅ 雑務手 現業・非現業を問わず、ほとんどあらゆる職場におかれる職で、非現業ではおおむね守衛長、現業では事務掛または用品掛等の指揮をうけて物品の運搬、書類の送達、室内外のそうじその他雑務に従事するものである。(加藤誠次郎)
サーボモーター (英) servo motor 水車発電機の水車入口弁の開度調節に使われるモーター。

一般に使用する電力は定電圧、定周波数であるから、水力発電所で水車発電機を運転する際には回転速度を一定に保つ必要がある。このためには水車入口弁の開度を調節して、水車に流入する水の流量を加減してやらねばならない。また事故によって水車が過速となれば発電機の破かいを来すから、そのような場合には急速に水の流入を停める必要がある。強大な水圧に抗して弁を敏速に閉鎖するためにサーボモーターが用いられる。その構造は 10~20kg/cm² 程度の油圧によって動作する往復運動ピストンである。水車の回転速度が変化すると调速機が動作して油圧に変化を与え、サーボモーターを駆動して水車入口弁の開度を変化し、回転速度を一定に保つ。サーボモーターによって常時の回転速度の調整と事故時の発電機の安全が保たれる。(長岐靖隆)

さまたせん 佐俣線 熊本県宇土郡宇土町から同県下益城郡砥用町に至る国鉄自動車路線であって、所管する自動車営業所は熊本県下益城郡守富村(宇土)にある。



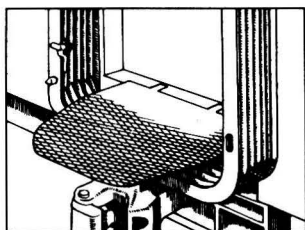
- 1 区間およびキロ程
宇土・砥用町間 27 km
- 2 沿革
宇土・熊延佐俣前間

昭 9・6・11 開業

熊延佐俣前・砥用町間 昭 23・3・13

- 3 営業範囲 旅客・手小荷物および貨物の取扱をしている。
- 4 使命 全線が鉄道敷設法予定線に該当し、鉄道の先行路線でありまた培養路線でもある。
- 5 特長 沿線は肥後平野をひかえ熊本県の穀倉である。(松沢信之)

さんいた 棧板 (英) apron 客車・電車・気動車および二軸ボギー有蓋(ゆうがい)車の妻貫通路(隣の車との通路)に設けてある鋼板製の板。車両を連結した場合、その連結部分の連結器の上方を貫通して歩行できるようになっている。なお客車・湘南(しょうなん)形を除いた電車および気動車の棧板は、



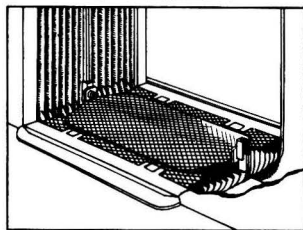
たがいに重なり合うようになっているが、湘南形電車の棧板は貫通部分の歩行をより安全にするため、棧板と棧板の間に上下左右に動く亀の甲形の渡り板を設けてある。(林 正造)

さんいんせん 山陰線 山陰線のほか、これから分岐する舞鶴線、宮津線、因美線、若桜線、倉吉線、境線、木次線、大社

線および三江北線の 9 支線を含めた総称。線名はむかしの五畿七道の 1 たる山陰道を通っているところから名付けた。(森 梯寿)

さんいんほんせん 山陰本線 東海道本線京都駅から裏日本に出て、日本海にそって西へ進み、鳥取、松江を経て山陽本線幡生駅に至る 675.4 km の線。正明市・仙崎間 2.2 km、馬潟・馬潟港間 1.0 km の枝線を含み総営業キロ 678.6 km。山陰線に属し線路等級は乙線である。この線は中国地方における裏日本縦断線で鳥取、米子、松江、浜田、萩等を通ずる山陰地区における幹線であり、大山国立公園、出雲大社等もこの沿線にある。(森 梯寿)

2. 棧板(渡り板)を設けたもの、湘南形電車

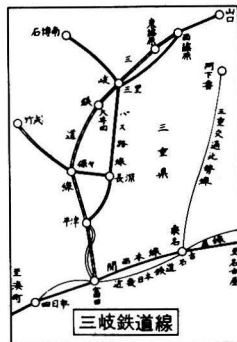


さんかくしきうんちんひょう 三角式運賃表 運賃を表現する 1 形式である。運賃表の表現形式には距離式、駅名式、三角式等がある。三角式運賃表は駅名式と距離式とを折中したもので、図(次ページ)のように発着駅を三角式に組合わせ、ただちに運賃額を見出すことができるのもっとも便利な形式である。しかし、駅名が多くなると検出に不便となるので特定区間に多く用いられる。(関根昇一)

さんぎてつどう 三岐鉄道

1 事業者の概要

名称 三岐鉄道株式会社、本社 四日市市大字東富田、資本金 10,000 万円、おもな事業 地方鉄道、一般乗合旅客自動車運送 44 km。鉄道従事員 275 人、保有車両 機関車蒸気 1、内燃 2、電気 3、内燃客車 9、客車 6、貨車 141 両。



沿革 昭和 3・9・20 資本金 600 万円で会社設立、同 6 年富田・東藤原間を創業現在に至る。同 27・12 内燃自動車による国鉄乗入実施。同 29・7 全線電化。

2 地方鉄道線

国鉄関西本線富田駅に連絡、富田・東藤原間(三重県) 26.5 km 単線、動力電気・蒸気・ガソリン、軌間 1.067 m、旅客・貨物運輸を目的とする。昭和 3・6・9 免許、昭和 6・7・23 富田・東藤原間を、同年 12・23 東藤原・西藤原間を開業。

3 運輸概況

項目	昭和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	1,838	2,033	1,999
人キロ(千)	17,340	17,797	16,986
貨物輸送トン数(千t)	518	614	625
トンキロ(千)	12,867	13,961	14,225
旅客収入(千円)	36,057	40,028	38,105
貨物収入(〃)	120,512	145,850	147,528
運輸雑収(〃)	4,845	5,100	6,131
収入合計(〃)	161,414	190,978	191,764
営業費(〃)	137,225	159,034	154,473
営業利益(〃)	24,189	31,944	37,291
営業係数(%)	85	83	77